資料3

★第2期 中期計画における収支設定の前提条件

営業費用	科目	区分	前提条件等
	給与	ア	H27年度決算見込ﾍﾞｰｽに主な増減を見込む。退職給付引当繰入額は26年度ﾍﾞｰｽで274,043千円を見込む。H28年度は、医師2名、看護師10名、理学療法士等コメディカル13名　他1名　計26名の増員及び共済費の増として総額2.5億円の増を見込む。またH29年度は、医師3名の増員を見込み0.5億円の増を見込む。
	材料費	イ	H27年度決算見込みベースで医療収益増加に対し28%の比率で推計したうえで、医療材料の効率的使用の徹底、後発薬品への切換え促進、価格交渉などにより、材料費比率27%を目指す。
	経費	ウ	H27年度決算見込みベースで推移。
	減価償却費	エ	H27年度新規医療機器（救命含む）購入等の固定資産で、3億円を見込むとともに、年次ごとの償却に伴う減価を見込む。
営業外費用			
	財務費用（支払利息）	オ	5年間の新規発行分を見込み、支払い利息を推計。
	控除対象外消費税（資産にかかるものを含む）	カ	H27年度決算見込ベースとし、H29年度には2%の増税分（約1.4億円）を見込む。
臨時損失	固定資産除却損	キ	H27年度決算見込みベースとし、各年度7,000千円を見込む。
営業収益			
	入院収益	ク	H27年度決算見込みベースに毎年度1.5%の増収を見込み、その上で医師やコメディカル等の診療体制の強化及び施設改修による診療機能の充実により診療科収益の増加を見込み、H28年度に2.5億円、H29年度3億円の上乗せを見込む。 ※ H32年度 延入院患者数：133,642人、入院収益：11,933,104千円を見込む。
	外来収益（その他医業収益含む）	ケ	H27年度決算見込みベースに診療体制強化による外来収益の増加を見込み、H29年度に3億円、H30年度に1.5億円の増を見込む。 ※ H32年度 延外来患者数：219,677人、外来収益：3,596,129千円を見込む。
	運営費負担金収益	コ	市からの繰入金の一部　H28年度7.81億円、H29～30年度7.62億円、H31～32年度7.82億円で推移。 5年間の繰入金総額（運営費交付金収益・営業外収益の運営費負担金収益を含む）では48.54億円で、前期分（44.20億円）より、4.34億円の増額を見込む。
	運営費交付金収益	サ	市からの繰入金の一部で、院内保育所等にかかる繰入相当額　H28年度以降35,000千円で推移。
	補助金等収益	シ	運営のための国・府補助金で、H27年度決算見込ベースとし、各年度1.65億円を見込む。
	資産見返補助金戻入	ス	医療機器関連資産の減価償却見込み相当額の収益化を見込む。
	負担金収益（救命センター分）	セ	H27年度決算見込ベースとし、各年度6.13億円を見込む。
営業外収益			
	運営費負担金収益	ソ	市からの繰入金の一部で、地方債利息にかかる繰入相当額　H28～30年度1.4億円、H31年度以降1.2億円で推移。
	その他営業外収益	タ	固定資産の貸付等で、H26年度決算見込みベースで推移。

【参考】

資本支出			
	建設改良費	チ	起債対象の医療機器整備更新は各年度2億円、情報システム改修はH29～31年度各年度2億円、施設設備改修は毎年1.05億円をベースに、H28年度に3億円、H29年度に2億円、H32年度に2億円、それぞれ上乗せを見込む。 起債対象外の施設改修は各年度30,000千円を見込む。
	建設改良費（救命センター分）	ツ	（救命センター分）医療機器購入分として、H28年度1億円、H29年度2億円とし、それ以後同様の繰返しを見込む。また、設備改修分として、毎年修繕積立金10,000千円を見込む。
	償還金	テ	移行前地方債償還元金及び長期借入金償還元金を見込む。
		ト	資金調達した額の償還の額を見込む。 H29年度3.4億円、H30年度3.3億円、H31年度3.3億円の合計10億円の償還を見込む。
資本収入			
	長期借入金	ナ	医療機器、情報システム、施設整備改修等で、5年で総額28.25億円を見込む。
	負担金収入（救命センター分）	ニ	建設改良費（救命センター分）支出と同額で、5年総額8.5億円を見込む。